

代々木上原駅
NAMAZU BIYORI

no.13

今号の総編集人

Ai Sakurai

櫻井 藍 | 鯨組大工見習い



WELCOME TICKET
なんてんcafe
¥100割増

Ai Sakurai

櫻井 藍 【鯨組大工見習い】

インタビュー：早速関係ない質問ですが櫻井さん出身はどこでしたっけ？

櫻井：長野県です。実家はお寺をやっています。

へえ!! すごく安直な考えですが尼になろうとか思わなかったんですか？

ないですね(笑)。寺のことよりものづくりに興味があったので。小学校のときは漫画家とかファッションデザイナーとか、本当に普通にみんなが憧れるような仕事をしたいと思っていました。



出身大学が滋賀県立大学環境建築デザイン学科ということですが、そこからなぜ大工になろうと思ったんですか？

大学院生時代に、設計事務所に就職した先輩から話を聞く機会があって、その時に先輩たちが「実物を見ないで納まりの図面を描かなければいけないから大変!」というようなことをこぞって言っていました。私は頭だけで考えても理解できないタイプなので、先輩たちと同じように設計に進んでも、建築がよりわからなくなってしまうんじゃないかと思いました。また私は学生が森のことから設計、施工まで学べる「木匠塾」という活動に参加していたので、自然に大工という選択肢が出てきました。



なるほど、でもどうやって鯨組を知ったんですか？

「建築雑誌」で岸本さんのコラムを読んだのがきっかけです。日本建築学会が発行している雑誌なので難しい内容が多い中、岸本さんの文章がとてもわかりやすかったことが印象的でした。インテリっぽくないというか、たくさんの人に理解してもらおうとする文章でとてもいいなあと。記事中の記述に「施主は設計者でもあり施工者でもある。大工も設計者であり、施主と同様に「自分のつくった家だ」という感覚を持っている。」というのがあり、その感覚がとてもいいなあと思いました。

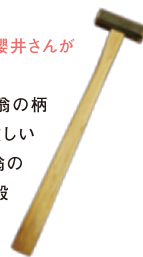
実際の1年間働いてみてどうでしたか？

大工という世界の奥深さは、実際に働いてみないとわかりませんでした! 例えば大工さんといっても色々なタイプの人があります。数寄屋を作る人、社寺仏閣を専門とする人。その中でも、作業が早い人、古い道具に詳しい人、電気道具が得意な人。全然違うんです。私の親方の向田さんは数寄屋建築の出身ですが、電気道具をうまく使ってスピードをあげ、電気道具じゃできないことや、こだわりのある場面では手仕事で綺麗に作るというスタイルです。早さと綺麗な仕事のバランスが良いと言われていました。よく「マキタとヒタチを使いこなせ」とアドバイスを頂いています。



ところで、大工道具は皆さん私物ですが、櫻井さんが初めて買った道具は何ですか？

玄翁(※金槌のこと)です。最近小さい玄翁の柄を自分で入れたので、次は大きいのが欲しいなあと思っているところです。ちなみに、玄翁の柄の部分は自分で加工して入れるのが一般的なのですが、私は現場で切った梅の木を入れました。



なんだか楽しそうな櫻井さんなんですが…正直辛いです!! って時ありましたか？

そりゃあ泣きそうなどきはありましたよ。修行はきついと思います。きついものだと思いますので…いや、

楽しいなあ…うーん…実はそんなにきつくないのかもしれない! わかりません(笑)夏の外壁貼りとかはきつかったです。

タフですね!ところで、社内が一番怖い人って誰ですか？

それはもう、社長と親方(※鯨組大工棟梁向田のこと)です。

ですよね(笑) そんな櫻井さんが現場で一番気をつけていることは何ですか？

基本的なことですが、現場に1番に入ることと、10時と15時の一服の際のお茶とお茶菓子を切らさないことです。仕事を教えてくださる先輩方に対して、まず自分ができることといえば、現場と休憩の時間を整えることなんです。

仕事をしていて、幸せだなあと思う時はどんなときですか？

お客様の言葉を直接伺うことが出来た時です。先日ある現場の竣工祝いがあったのですが、関わった現場でお施主さんに家に呼んでもらって、一緒に食事を食べるというのは幸せだなあ。と思いました。



なるほど。ちなみに現場の休みは日曜日ですが、何をしていますか？

大工の自主練習か、建築や町を見歩くようにしています。疲れているので、昼まで寝る→勉強する→飲むという感じです。

休みの日も自主練習ですか! 真面目! そんなことないですよ。もともと好きなことだし、最後は飲んでますし(笑)。

勉強熱心な櫻井さんなんですが、目指してる人とかお手本にしている人はいいますか？

親方はもちろんなのですが、身近なお手本で言うところと今現場に入ってくださっている大工さんです。その方は大工としてのスタートは大学卒業後で私と同じような年齢だったそうなんですが、今は大工として独立しつつ建築士として図面も描ける。何より、親方をはじめ年配の方から認められているのは凄いなと思います。現場の雰囲気もいいですし。



櫻井さんならそこにいるだけで現場も和みそうですけど。いえいえ、まだそんな風には振る舞えません。まだまだ勉強不足だと思います。

なるほど。1年ではなかなかですね。最後に、将来の夢をお伺いしてもいいですか？

子供に「お母さんいつも楽しそうだなあ」と思われる「お母さん大工」になりたい! 楽しんで仕事をしていきたいです!

ありがとうございました。



インタビューの受け答えの一言一句を「うーん」と悩みながら、一語一語丁寧に答えてくれた櫻井でしたが、将来の夢は迷わず「お母さん大工になりたい!」と言った姿が一番印象的でした。彼女のタフさの根幹を少し知ることが出来たような気がします。いつかきっと「お母さん大工」が誕生する日まで、皆さま応援よろしくお願ひ致します。(インタビュー／大石 真理子)

2014.4.15-16
発行
発行所
発行所
発行所

参加者募集

池袋西口&要町まちづくり合同企画

池袋西口から要町 地域の“おいしい!”を食べる会

自分たちの住んでいる町についてどれくらいのことを知っていますか？美味しいコーヒーを手に入れるにはどこに行けばいいのでしょうか。美味しいお惣菜は？お豆腐屋は？平日は職場、休日はお出かけ。実は住んでいる町についてそんなに知らない…なんて人も多いのではないのでしょうか？

そんな皆様のために 町の良いところ一気に知っていただくということで地域の美味しいものを集めることにいたしました。主催者は池袋西口を中心にまちづくり活動を行っている「イケニシブクロ」と要町の町おこしを目論む、なんてんcafeの有志スタッフ。みんなで美味しいものを食べたあとは、そんな主催者から活動のプレゼンテーションや、実際にみなさんからまちづくりのアイデアを募る時間をご用意しています。町について、楽しくみんなで知っていきましょう！

場所：なんてんcafe

日時：2014年4月16日(水) 19:00-21:00

参加費：1,200円

(軽い夕食と1ドリンク、要町グルメ代)

お申し込み：電話、メール、facebookイベントページ

右記参照 ※なんてんcafe大石真理子が窓口です

※食材の手配のため、お申し込みは4月14日(月)までとさせていただきます。



なんてん cafe

なんてんcafeは鯨組の運営するカフェです。「食卓から暮らしを考える」を方針に、おいしいご飯とくつろぎの空間を提供しています。住宅のセールス等は一切ございませんので、ぜひ私たちの仕事と雰囲気を偵察にお越し下さい。



鯨日和編集後記

鯨日和は2014年、鯨組の人を取り上げていくことにしました。会社＝人の集まり。どんな人がいるかが見えればどんな会社か見えてくる。2014年の鯨日和もどうぞよろしくおねがいいたします!!

Facebookページもやっています。

こちらは

鯨 facebook

で検索ください!



インターネットで

鯨の小窓

を検索!



鯨組OFFICIAL WEB MAGAZINE

「鯨の小窓」開いています!

鯨組のスタッフがブログ形式で

日々更新中。家づくりの裏側やイ

ベント情報など盛り沢山です!

ぜひお立ち寄りください。

お問合せ

TEL : 03-5986-1081 FAX : 03-5986-1082

メール : office@yoshikawano-namazu.com

住所 : 〒171-0043 東京都豊島区要町 1-10-7

アクセス : 有楽町線・副都心線「要町」駅2番出口(エレベーター) 徒歩1分